

設立50周年記念事業準備着々と進行中！

障害者川柳応募について

「障害者川柳」のご応募、ありがとうございますました。

本連合会が今年、設立50周年を迎えるにあたって、その記念事業の一環として実施してきた「障害者川柳」の募集、お陰様で大きな反響をいただきながら、8月20日をもって応募を締め切らせていただきました。

～障害をユーモアで笑い飛ばそう！～というテーマでホームページなどで全国に呼び掛けたところ、募集を開始した翌日から、メールやハガキなどでたくさんのご応募をいただき、事務局でもその反響の大きさに驚いています。

お寄せいただいた作品は8月20日現在1,300句を超え、たくさんの作品が毎日のように寄せられました。事務局ではその集約作業に、連日汗だくで追われたところですよ。

ご応募いただいた作品を一読させていただくと、障害や、障害者の日々の暮らしについて、川柳の5・7・5にのせて、自分の日頃の思いを伝えたい、普段考えている事をみんなと共有したいという、強い思いを感じます。

ただ、「障害」という、そんなに軽くないテーマを、笑いで表現するというのはそう簡単なことではなく、日常のエピソードなどを笑いで表現することに皆さん大変苦労されている様子が作品の中から感じ取れます。

寄せられた作品の選考は9月中旬に開かれる選考委員会で行われます。

川柳作家をはじめ、福祉、学識経験者及び一般市民の方々による選考委員会で優秀作品が決定し、作品集としてまとめられたうえ、10月18日に予定している身体障害者団体連合会設立50周年記念式典の中で発表と表彰が行われます。

障害のある方、また、一般の方が障害に対し、どのような印象や考えを持っておられるか、川柳を通じてその思いが伝わることと思います。

皆さん、どうぞお楽しみに！
(実行委員会事務局)

「記念物品の寄贈」のアイデア募集！

本連合会では設立50周年の節目にあたり「記念式典」や「障害者川柳」の募集など、様々な記念事業を実施していますが、このうちのひとつ、「記念物品の寄贈」のご案内です。

私たち連合会ではこれまで、災害や事業などの有事に備え、長い間、会費や見舞金の中から僅かずつですが、基金を蓄えてきました。

今回、50周年記念事業として、公共施設などに物品を寄贈することになりました。寄贈先としては、市内の公園や道路周辺、駅や市役所、社会福祉センターや図書館など、記念に残るアイデアを皆さんから募集しています。私たちの施設にぜひという声も大歓迎！

寄贈予定金額は10万円以内、アイデアの募集締め切りは8月末日です。採用された方には記念品をさしあげます。応募先は連合会事務局まで。皆さんのご応募をお待ちしています。

(実行委員会事務局)

身障連ホームページ開設

50周年記念事業の一環として開設したホームページですが、この度の障害者川柳募集で全国から応募をいただきました。改めて、開設の効果に驚いています。益々充実してまいります。

また、ホームページの運用をお手伝いしたい方を募集しています。事務局に連絡ください。

ホームページアドレスは、
<http://shinsyoren.web.fc2.com/>
右のQRコードからもOK！

長岡身障連かわら版

【発行人】
長岡市身体障害者団体連合会
会長：藤田芳雄
令和2年夏号



聴覚障害者との コミュニケーションについて

長岡市ろうあ者福祉協会は、私たち身障連の仲間です。しかし、聴覚障害のある方との意思疎通はなかなか困難なことが多いようです。

簡単な手話により、少し意思疎通ができれば、とても親しくできそうですね。

今号から、2～3くらいの手話を掲載していきますので、覚えていただいて、身障連のイベント等で使ってみていただきたいと思います。

聴覚障害のある方が 感じる不便さ

聴覚障害は外見で判断できないので、周囲の方に気づいてもらえません。

外見で判断できる障害のある方は、困っているときなどにも比較的サポートを受けやすいものです。しかし、聴覚障害のある方は、一見してその障害がわかりません。そのために周囲の人に気づいてもらえず協力を得られなかったり、誤解を受けることもあります。

音によって周囲の状況を判断できない場合があります。

日常生活の中で、音などから周囲の状況を判断することができない場合があります。事故や事件が起こったとしても、気づかないことが多く、そのため不自由を感じるだけでなく、危険な目にあうこともあります。

放送や呼び掛けにも気づかないことがあります。

聴覚障害のある方は、銀行や病院などの呼び出しが分からず、不在だと思われることがあります。また、店内放送や駅の構内放送にも気づかず、適切な行動がとれないことがあります。

コミュニケーションの方法を理解されないことがあります。

聴覚障害のある方には、手話や筆談など、その方なりのコミュニケーションの方法があります。

コミュニケーションの方法が適切でないと、話を伝えることができません。その方に合ったコミュニケーションの方法をまず理解することが大切です。

聴覚障害者との心のこもった コミュニケーションのために

どんなコミュニケーションの方法を希望しているのか、知る事が大切です。

聴覚障害のある方の中には、手話のできる方とできない方、口の動きで読める方と読めない方、補聴器をつけて聞こえる方と聞こえない方など、様々なケースがあります。その人が希望する方法でやってみましょう。

顔の表情や口元がよく見えるようにしましょう。

口の動きを読むことに限らず、手話の読み取りでも、口の形や表情は大きな手がかりとなり、コミュニケーションを助けます。顔をしっかりと相手に向け、逆光にならないような位置で会話することを心がけてください。補聴器をつけているからといって、耳元で大きな声で話しかけることはしないでください。

視線を合わせてから、話し始めてください。

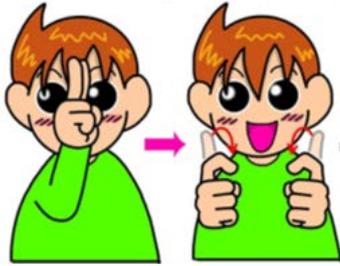
後から声をかけたり、突然話しかけられても、すぐに会話に入っていくことができない場合があります。話しかける時には、まず軽く肩をたたいたり、目の前で手を振ったりして、相手が振り向いてから、ゆっくりと話し始めてください。

同時に複数の人が話さないようにしましょう。

複数の人たちで会話する時は、同時に話をしないように心がけてください。また、広い場所や会議などで、様々な方向から発言があるような場合は、話し手の方に注意を向けてから話し始めるか、周囲の人がさりげなく注意を向けてあげてください。



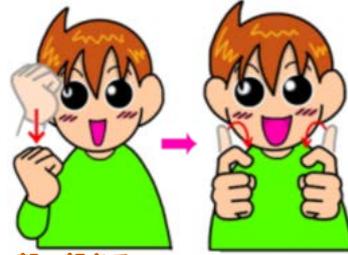
① こんにちは (挨拶)



こんにちは

・右手をチョキにして額に当ててください。
(時計の針が12時を指している状態です)
・胸の前で両手の人差し指を立てて、向い合せ同時に曲げる(人と人が挨拶している様子)

② おはようございます



朝・起きる・起床・おはよう 挨拶・礼

・【朝・挨拶】
・グーにした手をこめかみに当てて下におろします。(枕を外す様子です)
・胸の前で両手の人差し指を立てて、向い合せ同時に曲げる(人と人が挨拶している様子)

道の駅「ながおか花火館」を検証して!

長岡視覚障害者福祉協会 会長 五十嵐政男
昨年4月から、喜多町の国道の西側に着工していた道の駅「ながおか花火館」が、国からの補助金を含め、約29億円の予算で始めた工事が完成間近になりました。

そんななか、長岡市観光事業課から施設の一部である公衆トイレがほぼ完成したので、視覚障害者の方から見学して、意見を聞かせてほしいとの依頼がありました。

7月14日(火曜日)午前11時から12時まで、当協会の藤田顧問と丸山さん(ガイド役)、石川県から視覚障害者1名とガイド、それに私とガイド役の妻の3組の参加でした。

案内役は国土交通省から6名そのほか長岡市観光事業課から2名の参加がありました。

花火館に到着して、最初に驚いたのは施設の広さでした。入口を間違えたのでどこを通り目的のトイレ施設に行くのか迷ってしまうほどでした。

トイレ施設の案内は国土交通省の方からでした。この施設は、道の駅も兼ねており、道路案内がトイレのエントランス内にあります。

また、その隣の建物は、長岡特産品やおみやげの売店があり、内装工事中でした。

施設内と連絡通路には、おおむね点字ブロックが敷設してあります。

今回のトイレ施設で感じたことはすべてにおい

て広く余裕がとってあると思います。女性施設内にも入って見ました。トイレが27個あります。手洗いは部屋の中央に設置されていて、新しいデザインだと思いました。

男性は20名分くらいですが、特に女性のトイレ数を増やしたとのことでした。

視覚障害者からの要望として、エントランス内だけでなくトイレ内にも点字ブロックがあればもっと良かったとの意見が出ました。

今後は、入口と多目的トイレに音声案内を取り付けるそうです。

今回の見学は、花火館の一部分トイレ施設のみ



ながおか花火館全景
R8喜多東交差点
左上が長岡IC方面
手前が長岡大橋方面

提供：国土交通省

でしたが、そのほかメインの花火ミュージアム、レストラン、売店、そして外には、芝生の広場があります。

24時間使用可能のトイレの北側には、広い駐車場があります。

道の駅「ながおか花火館」の開館が9月18日(金曜日)に決まりました。

これによって、また長岡市の自慢の施設が出来上がり、多くの来館者で賑わい、長岡の魅力を広めていくことを期待します。

平和の森公園の 清掃活動の歴史

毎年、7月の最後の日曜日に平和の森公園の清掃を実施しています。

今回は南中学校の生徒の皆さんも一緒に手伝ってくれる予定でしたが、今年も残念ながら雨で、実施はできませんでした。

そもそも、この平和の森公園の清掃が始まったのは平成9年になり、公園が完成した翌年から始められました。長岡平和の森公園は戦時下の昭和20年8月1日、一夜にして1,400人以上の市民の命が奪われた。米軍機B-29の焼夷弾による空襲からちょうど半世紀、まる50年になるのを機に、「今に生きる私たちの手で何かを残さねば」という市民の呼びかけと運動によって公園が建設されました。そこに市民の手によって寄付と植樹が行われ、

また市内を転々としてきた平和像が移築されました。そして翌年には広島の大原爆の炎の中から奇跡的に生き残った青桐の子供、「青桐二世」も広島市から贈呈され、今もすくっと平和像の横に立っています。



当日対応の皆様“お疲れ様でした”

以来、この平和の森公園では毎年、市主催の平和祈願祭や平和の森コンサートが開かれ、また2011年には大林宣彦監督の映画「長岡花火物語 この空の花」の撮影も行われました。

この平和の森公園建設の活動を進めた「平和の森をつくる会」の中心的存在だったのが身障連の藤田会長で、当時、連合会事務局長だった須栗依之（すぐりよりゆき）氏の呼びかけにより始められました。

以来23年間、雨で2回ほど中止にはなりましたが、平和の森コンサート実行委員の皆さんをまじえ、活動は今に引き継がれています。

また、今年も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、「慰霊・復興・平和への祈り」の想いを持つ長岡花火は中止となり、誰もが経験したことのない夏になってしまいました。

しかし来年は、新型コロナウイルスが収束していることを願い、例年以上に色々な想いがこもった綺麗な花火が空に打ち上がることでしょう。

「情報ファイル」

非常時のためのアイテム

「ヘルプマーク」「障がい者支援バンダナ」このところ年間を通じて全国的に集中的な豪雨が増え、大地震も心配されています。

コロナ禍ではあっても避難所に避難しなければならないケースも考えられますね。

そこで平常時はもちろん、災害時の避難の際に有効な障害者のためのアイテムを二つ、ご紹介しましょう。

(1) 新潟県は、昨年7月から障害のある方や、援助や支援が必要であっても外見ではわからない方のために、避難支援の日印としてヘルプマーク・ヘルプカードの携帯を推進しています。



ヘルプマークは、平成24年10月に東京で作成・配布が始まり全国自治体に活用が広がっています。

配布は無料です。まだお持ちでない方は市福祉課、または1階の総合窓口でお受け取りください。障害者手帳の有無は不要です。

仕様は、ソフトウレタン製、たて8.5cm、よこ5.3cm、吊り下げバンド付きで赤色地に十字とハートマークを白抜きした、全国共通のJIS規格です。

(2) 兵庫県豊岡市社会福祉協議会ではこの5月、「災害時等障がい者支援バンダナ」を作りました。バンダナを三角に折って背中にかけてもらうことでハンディキャップがあることを周囲に知らせ、避難の支援を受けやすくするのが狙いです。バンダナの三隅に「目が不自由です」などと書かれ、視覚、聴覚、身体（肢体不自由など）の障害の種別を表す一方、残るひとつ隅には健常者用に「支援ができます」と印刷してあります。

大きさは90センチ四方で、黄色いポリエステル生地には赤い文字で「〇〇が不自由です」と三隅に書かれ、英語や耳の形などのマークや視覚障害者用の識別タグも添えられています。

【編集後記】

神経難病である筋萎縮性側索硬化症（ALS）を患う女性の依頼により、医師2人が薬物投与を行い、女性を亡くならせる、大変痛ましいニュースがありました。

ひとそれぞれ価値観や考え方がありますが、尊厳死は全国の障害者に大きな不安を与えてしまったのではないのでしょうか。

重要なのは「支え合って生きたいと思える環境をみんな真剣に考えていかなければならない」ことではないかと感じます。

(H・K)